

12月・教皇さまの 意向のために祈りましょう

- ①一般の意向：相互の理解と尊敬
- ②宣教の意向：福音の使者である子どもと若者
- ③日本教会の意向：日本の観想修道会への援助

日韓司教交流会

大地震と津波の被災地・仙台で開催

第17回日韓司教交流会が11月8日～10日、仙台市内のホテルで開催された。韓国からは大司教、司教、補佐司教合わせて20人、日本からは17人全員、両国の司教協議会スタッフ、通訳など、総勢49人が参加。今回は大地震と津波の被災地で、それに関連した問題を学び合った。

初日は被災と復興支援の状況の報告(神田 裕神父)と「四大河川事業と



3日目の分科会で意見を交わす日韓の司教(11月10日)

関連した韓国の環境問題(姜 禹一司教)についての話があった。また、夕食に新教皇大使ジョゼフ・チエノットウ大司教も合流した。

2日目の午前中は「原子力安全の現状を考える―福島第一原発事故―」(後藤政志氏)と「生態神学」(イ・ジェドン神父)と題した講演を聴き、午後は松島経由で石巻を視察し、日和山の上で町を眼下にして全員で祈りを

し、教皇大使、池長大司教、姜司教が代表で花束をささげた。最後に石巻教会で大使を含む全員でミサをささげ、仙台市内で和やかな雰囲気の中で会食をした。3日目は、4つの分科会を行い、全体集会で発表した。韓国で開催予定の来年の交流会においても、今回のテーマに関連した問題を取り上げたいという意見が大勢を占めた。

交流会を終えて、高見三明大司教は「日韓の司教たちがますます緊密に連携して共通の問題に取り組むことができることは、大変歓迎すべきこと」と感想を語った。

原発に関する司教団メッセージ

11月10日の会見で一般に公表

11月10日、「いままです原発の廃止を」福島第1原発事故という悲劇的な災害を前にして」という日本司教団メッセージが公表された。日本の全司教17人は、日韓司教交流会に先立つ8日午後1時から、同じ会場で開催された第2回特別臨時司教総会において全会一致で原発に関するメッセージを裁決した。そして10日午前11時30分からカトリック仙台教区カテドラル元寺小路教会で、日本カトリック司教協議会の池長 潤会長、岡田 武夫副会長、高見三明社会司教委員会委員長、谷大二同委員長、平賀徹夫同委員の5人で記者会見を行い、一般に公表した。

取材に駆け付けたのは時事通信社とカトリック新聞社のみで、他に仙台教区広報委員会から数人の出席者があった。主

催者側は約40分間、質問に答えるなどしながら今回のメッセージの主旨、性格、対象などについて説明を行った。脱原発に向かいつつある世論を盛り上げるためにも、このメッセージを今後教会内外に周知していく必要がある。司教団メッセージは、カトリック中央協議会ホームページ(<http://www.cbj catholic.jp/jpn/index.htm>)でも見る)とができる。

東日本大震災被災地支援 長崎教区サポートセンターの活動



11月1～8日、長崎教区サポートセンターの古木真理一神父とボランティア総勢7人は、岩手県上閉伊郡大槌町にあるベスキャンプや釜石ベースキャンプなどにおいて東日本大震災被災地支援の活動を行った。同サポ

トセンターがボランティアと共に現地で活動するのは今回で4回目。大槌ベースキャンプ内の整備、写真洗浄(写真や清掃、釜石市のがれき整理、仮設住宅におけるバザー開催の手伝いなどを行った。また11月11日は、第2回長崎教会管区復興支援会議が福岡・大名町教会で行われ、大槌ベースキャンプの補修工事進捗状況の報告や今後の支援活動の具体的な取り組みについて話し合った。

牢屋の窄殉教祭

五島市久賀島で10月30日(日)、牢屋の窄殉教祭が行われた。昨年に続き今年も悪天候だったため、浜脇教会で殉教記念ミサが

今わたしたちが命を懸けて信仰に生きることが牢屋の窄殉教者たちへの最高のはなむけであると論じた。

五島でも親から子へ、また孫へと信仰を語り伝えていくことが難しくなりつつある現代において、殉教者を思い起こし、その遺徳に倣うことを心に留めながら帰路についた。関係者からは、「来年こそは殉教地でミサがささげられることを心から願うばかりです」と殉教地でのミサ開催がかなわなかったことを残念がる声も聞かれた。

黒瀬の辻殉教祭

11月13日(日)黒瀬の辻殉教碑公園で、山田 聡師(平戸地区長)と7人の司祭らの共同司式のもとミサがささげられ、約220人が参加した。テーマは「見なさい、ここにわたしの家族がいる」。

橋本 勲師(上神崎教会)は説教の中で、黒瀬(クルス)の辻(十字架)に倣い、神さまとのつながり「縦のしるし」と社会とのつながり「横のしるし」を結び、確固たる十字架にするよう論じた。また、先日天に召された、前地区長の中島健二神父の強い十字架についての話をした。ミサでは東北の震災で苦しむ人々のためにも共に祈り、最後に、七五三を迎えた子供の祝福があった。

を祭った神社。今年で12回目を数える神社祭の参列者は年々増えている。この日は県内外から約350人が訪れ、共に心を合わせ祈りを込めて信仰を守った先祖をしのんだ。ミサを司式した黒崎教会主任司祭の大山 繁師は説教の中で、「わたしたち日本人は先祖を敬い、家の系譜を大切にします。その中に洗礼名を持つ先

「奉納する時の気持ちは『感謝』です。サン・ジワンさまに感謝し、オラシヨを伝えてくれた先祖に感謝する。それが一番変わらない大切なことです」と語った。

イタリア・アシジでの世界平和祈禱集会1986年の開催から25年

2011
**クリスマス
愛の募金**

国内外の被災者のため
実施期間：12月1日～1月15日
主催：カトリック長崎大司教区
長崎教区評議会

期間：2011年12月1日～
2012年1月15日
主催：カトリック長崎大司教区
長崎教区評議会

ささげられ、下五島地区の信徒と巡礼団を含めて大勢の参列者が集まった。説教師を務めた、三井楽教会主任司祭の竹谷誠師「写真」は、キリシタン迫害の歴史をたどりながら、牢屋の窄殉教者への思いを新たにするとう促した。また、カトリックの信者であるということと、カトリックの信仰を生きたということについて問い掛けながら、

教師「サン・シワンさま」

現在、長崎教区に関する情報は本紙「よきおとずれ」や教区ホームページを通じて発信していますが、「長崎教区モバイル」(携帯サイト)の運用を10月から試験的に開始し、またこのほど「長崎教区ツイッター」も始めました。

教区の情報をより身近に感じていただくことを目指しています。どうぞご利用ください。
(教区広報委員会)

カトリック長崎大司教区モバイル
<http://www.nagasaki.catholic.jp/mobile/>
カトリック長崎大司教区ツイッター
<http://twitter.com/ngskcatholic>
カトリック長崎大司教区ホームページ
<http://www.nagasaki.catholic.jp/>

教区代表者会議に向けて小教区での分かち合いがスタートした。盛り上がりつつあるのか、立ち往生しているのか、現場から遠いわたしにはその実感がつかめないのがもどかしい▲もどかしさのあまり、先走ってあれこれ思いめぐらしている。現場の声を反映してはいないかもしれないが、喫緊の課題と対策、さらに長崎教区が目指すべき教会像を探ってみた▲まず明らかに言えるのは、10年後、現役司教が今よりも10人以上減っていることと、信徒数が極端に少ない教会が増えていることだ。それに備えるには小教区の再編は必至である▲とりわけ地方の教会は、少数の司教で広範な地域に点在する教会を担当せざるを得なくなる。地域信徒とチームを組み、司牧にあたる体制が必要となるが、そのためには信徒の養成が欠かせない▲信徒組織の強化も必要だ。今年、わたしたちは絆の大切さを改めて痛感した。信心会や活動団体集落ごとの組など、それぞれの関心と必要に応じた小さな集いが、みことばとご聖体に養われて一つの小教区共同体となる▲その小教区共同体は、その地域における「地の塩、世の光」福音のパン種である。そこで、目指すべき教会像は「地域に貢献する教会」。地域の人に、ここに教会があつてよかった、と思つてもらえる教会になりたい。

(S)

浦上教会の被爆天使像 国連欧州本部の常設原爆展へ



写真提供＝長崎原爆資料館

スイス・ジュネーブの国連欧州本部で11月11日から常設原爆展が始まった。一般紙によると、国連が無償で半永久的に場所を提供するという。原爆展では浦上



深堀 繁美さん

開幕に合わせて、浦上教会信徒の深堀繁美さん(80)が現地を訪問し、11日のオープニングセレモニーに田上富久長崎市長、松井一實広島市長と共に参加した。これに先立ち同日午前中は、スイス・ニヨン市の高校で被爆体験を話した。一連の日程を終えて14日に帰国した深堀さんは、

「高校生たちは、被爆者に会うのは初めてだったようで関心を持って話を聞いている様子だった。戦争を知らない人たちにどこまで伝わるか分からないが、話さなければならぬと思った。ヨハネ・パウロ2世がおっしゃったように、戦争は人間のしわざ。平和を宣言する1人の声は小さいけれど集まれば大きくなる。一人一人が声を上げてほしい」と語った。

軍艦島 スタディーツアー 教区平和推進委員会

教区平和推進委員会(岩村知彦委員長)は、過去を糧に未来へ」と題して10月15・16日、研修会

を開催した。1日目は高實康稔氏(岡まさはる記念長崎平和資料館理事長)の基調講演と平野伸人氏(在外被爆者支援連絡会)の報告がカトリックセンターであった。基調講演では、朝鮮人・中国人の強制連行の歴史的経緯を振り返り、軍艦島(正式名称・端島)に連行された労働者の生々しい証言も紹介された。軍艦島は、近年観光資源として注目されており、長崎県では世界遺産登録の推進も進められている。また報告では、被爆者でありながら日本国外に在住しているために被爆者援護法の援護の対象外とされてきた在外被爆者特に強制連行されて長崎

で被爆した在韓被爆者の苦難の歴史と、国に援護を求める取り組みの歩みが紹介された。2日目、一行は軍艦島を見学し「写真」、研修会を終えた。参加者からは、「長崎は原爆による被害を受けたという認識だったが、加害の舞台でもあったことも忘れては



長崎教区主催 11月・死者の月 追悼ミサ



11月6日(日)15時から、浦上教会で長崎教区主催の「長崎教区民追悼ミサ」が高見三司大司教司式のもと行われた。大司教は説教の中で、長崎教区にかかりのある、亡くなったすべての信者の方々のことを思い、永遠の安息を祈るよう呼び掛け、200人余の信者らは共に祈りをささげた。長崎教区主催の全教区民のための追悼ミサは2009年から毎年、死者の月に当たる11月の第1日曜日に開催されている。

ならないと思う」という感想が聞かれた。戦前・戦中そして戦後へと続く、長崎の地を舞

この日も学年ごとに各教室で講師らの指導のもと、書や生け花の実技、お茶でのもてなし、朗読や歌、手話



長崎市橋口町にある長崎カトリック神学院(眞浦健吾院長)では毎月1回、神学生のために「教養講座」が実施されているが、11月6日は神学生の保護者らが学院を訪れ、講座を参観した。

教養講座は、書道(中1)華道(中2)茶道(中3)話し方(高1)手話(高2)そして高3は現在在籍していないがキリスト教の歴史という内容

小神学院教養講座参観日

この日も学年ごとに各教室で講師らの指導のもと、書や生け花の実技、お茶でのもてなし、朗読や歌、手話



姜禹一司教講演 純心レクチャーズ



純心大学キリスト教文化研究所は済州教区長 姜禹一司教を招いて10月18・19日、長崎純心大学で第14回純心レクチャーズを開催した。1日目、姜司教は韓国の文化的・歴史的背景をひも



出津教会 国の重要文化財に

国の文化審議会は10月21日、長崎市の「出津教会堂(写真)」など6件の建造物を国の重要文化財に指定するよう、中川正春文科相に答申した。長崎市西出津町にある出津教会(主任司教岡久司師)は、1882年にド・ロ神父の設計で建設され、



完成後も継続して増築、現在に至っている。

全国広報担当者会議 仙台で開催 「カトリック広報の役割―東日本大震災を経て―」

各教区などで広報活動に携わっている担当者らを集い、「2011年全国広報担当者会議」が11月15日から17日、仙台教区内の会場に行われた。テーマは「カトリック広報の役割―東日本大震災を経て―」。会議には中央協議会(東京)と12教区の広報担当者、3出版社と1団体から計30人余が参加した。1日目は仙台教区本部事務局がある会館(仙台市青葉区)で、元カトリック中央協議会広報部長の長谷川昌子シスター(聖パウロ女子修道会)の話を聞いた。講師は自身も被災した立場から、震災以降、最も利用されたメディアが「口コミ」だったこと、またラジオや新聞からの情報も役立ち、新聞については震災関連記事の取り上げ方や視点が全国紙と地方紙とで異なっていたことについて話した。そして、「知らせる」役



小松神父は、被災した当時の仙台教区状況やその後の対応、カリタスジャパンとの連携、各ベースキャンプの特徴など、また多くの協力者、支援者が常にあったことについて触れ、「必要な場所に必要の人が置かれるのだな」と思ったと語った。



小松神父

最終日は仙台教区の岩井誠広報委員長から震災後の情報の流れ、教区報の号外を発行した経緯などの話が、最後に元寺小路教会でのミサで、今後の広報活動がよりよいものとなるよう皆で祈り、解散した。

「長崎への道」巡礼体験談

10月23日、長崎大司教館に京都から長崎までを徒歩巡礼した体験を持つ信徒・修道女らが集まり、高見三明大司教にその体験を分かち合った。

体験者と高見大司教が分かち合い

この集まりは、日本二十六聖人が歩いた京都・長崎間の1000kmを徒歩で巡礼する集い、「長崎への道」(通称・ナガミチ)事務局長の本田周司さん(84、大阪・吹田教会信徒)が、高見大司教からの「体験者の声を聞きたい」との依頼に応えたもの。当日は県内外から会員ら25人余が参集した。



初めのあいさつの中で大司教は「来年2012年、26聖人列聖150年を迎えるに当たって教区では記念行事などを検討している。殉教者が実際に歩いた道の巡礼道は世界でも珍しいと思う。検討段階だが、地図製作や関連の整備を準備する上

で、実際に歩いている皆さんから『もっとこうしたら、こうあったら』と巡礼道について思うところがあれば聞かせてほしい」と今回の依頼の目的を伝えた。

本田さんは、35年前に長崎への道を初めて完歩した当時の感動を、「西坂に着いた時、26聖人のレリーフの前で涙が出ました。それまで涙を流してお祈りしたことがなかった。この涙の道、巡礼の道を、世界の人に知らせたいと思いました」と振り返り、現在のナガミチの活動につながった歩みを熱く語った。そしてその後一人一人から、巡礼を決心した経緯や巡礼中のエピソード、気づき、まだナガミチ巡礼はしていないけれど関心があるーなど

韓国神父11人 五島巡礼

10月23、24の両日、韓国からカトリック司祭11人が鹿児島経由で五島列島に巡礼に訪れた。



ランシスコ・ザビエルによつて日本にカトリックが伝えられたルートをたどるため、最初に鹿児島を訪れ、五島列島へ。福江島では、禁教が解かれた後に再布教の中心地となった堂崎教会を皮切りに、楠原牢屋跡、日本最古のルルドのある井持浦教会などを巡った。巡礼の案内には地元信徒が協力。司祭たちからは、堂崎教会の資料館のマリア観音、サン・ジワンさ

みことば友の会 佐世保地区集会

10月23日、佐世保教会でみことば友の会(西村良男会長)佐世保地区集会が行われ、友の会会員と役員ら25人が参加した。

まなどから、五島キリシタンの信仰の深さを感じ取り、五島の迫害や殉教の歴史を知って感動したとの声が聞かれた。道中、一行は熱心にロザリオの祈りをし、三井楽教会では五島の先祖のためにミサをささげた。

日本女子修道会 総長管区長会研修会

10月23日、日本女子修道会総長管区長会(米田ミチル会長)が主催する研修会が上智大学神学部教授の瀬本正之師(写真、イエズス会)を講師に迎えてカトリックセンターホールで開催され、修道女ら約150人が参加した。



テーマは「カトリック社会教説の視点から見た環境保護」。同管区長会では、U I S G (女

の社会教説綱要」を紹介しながら、「神の似姿として創られ、尊厳を持っている人間だからこそ、環境保護、自然を神の心にかなうように(守り)努めなければならない」と強調した。

香典返し お礼とご報告

長崎大司教区 ●岩永眞智子様(浦上) 故イザベリナ 西田ハツエ様 右の方から香典返しに代えてご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げますとともに故人のごい福を心からお祈り申し上げます。



巡回教会めぐり

10

仲知小教区

米山教会

特徴的な形と 白い外観



中通島の最北端に位置する教会。五島の他地区の信徒と同じように迫害の嵐が吹きすさぶころ、長崎市の西彼外海地方から移住したキリシタンの子孫で、あつい信仰を持つ漁業者の信徒が多い。現在、世帯数29戸、信徒数57人。

1903年(明治36)に建立された最初の聖堂は、山の頂上付近であったため、狭い山道を歩いて行っていた。その後老朽化が激しくなり、交通の便利な海岸近くに居を構える信徒が相次いだこともあって、現在の聖堂が77年(昭和52)、信徒の便宜を図って、集落のほぼ中央に建立され、献堂式が行われた。

江袋は、早い時期から自給自足ができる良い土地と認められ、西彼外海地方から一家をあげてキリシタンが移住し、キリシタン集落が形成された。

江袋教会

火災による全焼から復元 2010年献堂



五島最初の神父となる島田喜蔵師の叙階を前にして、1882年(明治15)に聖堂が建てられた。この教会は当時17戸の江袋の貧しい信徒が多額の犠牲を払って、ブル師の指導と資金援助を受けながら建立したものであった。

赤波江教会

民家風の聖堂から 赤い屋根の教会に



最古の教会であったが、2007年(平成19)火災により全焼。32戸の江袋の信徒だけでは復元は難しかったが、全国の皆さんより多大な援助をいただいて、焼け残った一部の建材をそのまま利用して元の位置に復元し、2010年(平成22)5月9日献堂式が執り行われた。

皆さんのご恩を忘れることなく、江袋信徒一同は巡礼者を温かく迎えられるよう努力しているの

比較的緩やかな谷間となっており、かつてのキリシタンは、たとえ山間へき地であっても、比較的自然条件に恵まれた平地と湧水のある場所を見つけて移住していることが実感できる。

赤波江教会が設立されたのは1884年(明治17)のことで、伝承では当時の戸数は7戸だったといわれている。

民家風の聖堂が、現在の赤い屋根の教会に生まれ変わったのが1971年(昭和46)のこと。

現在の世帯数は8戸、信徒数17人。わたし個人的には、仲知から米山へ向かう道中から見える赤波江教会の景観が大好きである。

(仲知教会主任・岩本繁幸)

アンナ

新里トメ修道女 (お告げのマリア修道会)



10月31日、聖マリア病

院で帰天。89歳。1922年五島市三井楽町嶽に生まれ、35年三井楽修道院入会。当初教え方としての教育を受け、地域の教え方としての奉仕と保育事業に携わる。手先も器用で、戦前・戦後、地域の方々の注文を受けての裁縫にもいそし

む。58年初誓願、64年終生誓願立。晩年はお祈りに専念する傍ら、修道院周囲の花畑の草取りにも励む。今年9月、大腿骨骨折で入院、姉妹たちの見守りの中帰天した。葬儀ミサ、告別式は11月1日、三井楽教会で行われた。

長崎教会管区難民移住移動者委員会企画 セミナー「社会的責任と信仰をもって生きる」

～入国管理法来年度改訂について考える～
日時 2012年2月11日(土) 午前10時～
場所 熊本・マリスタ学園(熊本市健軍)
お問い合わせ・参加申し込み (担当司祭) 川口昭人神父 ※詳細は次号掲載します。
神ノ島教会 TEL 095-865-1028

800キロの奇跡

わたしのサンティアゴ巡礼(完)

川上健治(大野教会)



子。神父さまは、皆の祈りの支えで、かなりつらそう。

13日(月) ちよつと無理をして33.3kmアルスアからモンテ・ド・ゴソまで歩いた。山の中で、水と食料が底をつく。前を歩いてきたドイツ人が、紅茶700mlとクッキーを分けてくれた。明日はいよいよサンティアゴだ。

6月8日(水)最後の難関オ・セブレイロ峠越え。家内は、左足小指をドアに挟み負傷、ドジだなあと思つたら、9日(木)下り坂で2度目の転倒。左ひざ、左脛の上、左掌を擦り傷、1人で起きることができず近くにいた巡礼者に起こしてもらった。ありがたい。もはや歌う余裕などない。N神父さまの言われるように孤独と闘うのも巡礼だ。サリアを過ぎると聖地まであと100km。目的地が射程内に入る。



11日(土) メールではN神父さま、夕方から寝る前かけ具合が悪い様

「彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であつた」(使徒2章42節) まもなくクリスマスを迎えます。日頃は埋まることのない聖堂も、この日ばかりはにぎわうのでしょうか。

クリスマスには、それほど大きな力(恵み)があるのでしょうか。神さまは、今年も希望を失わせぬよう、司祭自身にもその恵みを注いでくださる。

「使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに」熱心たろうとする「彼ら」がいること

みことばにふれて 80
岩崎康彦神父
(今村教会)



カット・赤尾理絵奈さん
(城山教会中1)

フェン4.5。小教区で働く司祭は、その地の信徒と共にあり、その地の信徒と共に天国への旅路を歩む。それが神さまの

この地にも救いを求める人々がいる。司祭は一人では天国にも地獄にもいかんとぞ。かつて、大先輩司祭か

人類の救いを望まれた神さまが、世に「教会」を残されました。教会はその思いを受け、使徒の教えを守り、相互の交わりを大切に、パンを裂くこと、祈ることに熱心でありました。

人は希望がなければ生きてはいけません。ましてや働けません。たとえ、今がどうであろが、絶

を示されます。清らかな幼子の姿で、救いの希望を示してくださいませ。さて、「主は一人、信仰は一つ、洗礼は一つ」(エ

お望みなのだと信じ、4年前、かの地の信徒たちに別れを告げました。何のために? すべては「救い」のために、です。

く、かえつてN神父さまの祈りとおささげによって、歩き通せたと思わざるを得ない。わたしが、サンティアゴ800km歩けたことの方が、奇跡なのかもしれない。



見つけ、予約の変更をする。いろいろトラブルもあったが、無事帰国した。ところが、N神父さまは、十字架上のイエスさまと同じように苦しんでおられた。やはりわたしのつたない信仰では、奇跡を起こせるはずもな

師の鈴木實氏(写真)。鈴木氏は、大阪の西成、東京の山谷で長年ホームレスを体験。幾度か刑務所や精神病院へ収容され



人を救うとはどういう事かホームレス支援講演会
10月22日カトリックセンターで、「人を救うとはどういう事か」という演題のもとホームレス支援講演会が行われ、約70人が参加した。講師は、東京在住で救世軍引退牧

たこともあったという。そしてアルコール依存症を克服し、かつて福岡県大牟田市でその方面での支援活動にも多くの実績を残している。

講演の中で、マザー・テレサの「ただ、ものを配るだけではなく、優しい言葉を掛けましたか?」という言葉を引き合いに出し、愛を持って行えるかどうかが大切、と語り、さらに「上から目線ではなく、よく話を聞き、彼らと友人として関わることだ」とも訴えた。

上五島地区連合婦人会ミニバレーボール大会
第23回上五島地区連合婦人会ミニバレーボール大会が10月23日(日)、新魚目総合体育館で行われた。これは、11小教区の婦人会員が一堂に会して交流と親睦を深めることを目的に毎年開催しているもの。

試合は70代までのさまざまな世代が一緒に対戦するなど活気にあふれていた。またBブロック優勝チームは、最後に司祭団チームとの「親善試合」を行い、応援しつつも自教会の神父の実力を見極め

うちに心一つになり楽しいひとときを過ごした。大会本部関係者は「上五島あげての大会。14教会の選手、応援に来てくださった信徒の皆さまに心より感謝します」と語った。

結果は次の通り。
【Aブロック】1位丸尾教会、2位福見・高井旅教会、3位冷水教会【Bブロック】1位曾根教会、2位青砂ヶ浦教会、3位真手ノ浦教会



たり、好プレー珍プレーに一喜一憂したり、350余人の信徒らが大声援の

「みことばにふれて」のカットを募集します

本紙掲載の「みことばにふれて」のカット(挿し絵)を募集します。「みことば」や「祈り」からイメージしたものを絵画で表現していただき、ふるってご応募ください。応募いただいた中からいくつかの作品を広報委員会が選考し、本紙2012年2月号以降の「みことばにふれて」シリーズに掲載します。
対象 小・中学生 募集期間 2011年11月10日(木)~12月20日(火)必着
応募資格 はがき、またはA4サイズまでの大きき用紙。描画材料は自由。
選考発表 本紙への掲載をもってかえさせていただきます。
その他 住所・氏名・学年・所属教会を記入。
応募作品は1人1点までとし、原則返却しません。
提出・お問い合わせ先 〒852-8113 長崎市上野町10-34 カトリックセンター内
カトリック長崎大司教区広報委員会 電話095 (843) 3869

新刊良書

★アシジの聖フランシスコ物語 文||崎濱宏美 絵||赤尾 誠




キリストにならって貧しく生き、すべての被造物を兄弟姉妹として愛し、平和を説いたアシジの聖フランシスコ。多くの人に親しまれ、愛されてきた聖者の生涯を、美しいイラストと分かりやすい文章で紹介する一冊。小学生低学年でも読めるように、漢字にはすべてかなをふって

★クリスマスのおとずれ

絵||杉田幸子 文||ドン・ボスコ社



クリスマス。悲しいときも笑顔になれるプレゼントは? 神さまからのおくりもの、かわいいイエスさまに、みんな喜びでいっぱい! 心温まるやさしい絵と言葉でつづる、クリスマスが待ち遠しくなる絵本。
ドン・ボスコ社、1050円。



主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式

(有) 栄光式典社

代表取締役 ヨハネ 西村 勇二
長崎 市 辻町 7-18 TEL(095) 844-4011
24時間営業 FAX(095) 843-9896

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売

**たつみ産業株式会社
西田商事株式会社**

代表取締役 ミカエル 西田 寛己
本社 〒857-1166 佐世保市木風町1468番地
TEL (0956) 31-8268

墓地・納骨堂 分譲中

高尾・本原・石神・江平・坂本 他
現地ご案内致します

なが さき せき ちょう

長崎石彫

ヨゼフ 岩永 博明
長崎市梁川町 6-17 岩永ビル
☎(095) 862-2469

A Merry Christmas!

材石 治明

長崎本店 長崎市城栄町 13-1 電話 (095) 846-3598
大村店 大村市民霊園内 電話 (0957) 50-3008

白蟻調査無料・駆除予防工事5ヶ年保証付
白蟻防除施工士

大田白蟻研究所

代表者 マリア 大島 睦子
(〒850-0811) 長崎市矢の平1丁目14番15号
☎長崎 095-822-8436
FAX 095-822-8436